

地球惑星科学基礎III 演習(9)

2006年12月15日 配布

- i) 和の規約を用いて, 以下を書き下しなさい.
- a) $x_1^2 + x_2^2 + x_3^2$
 - b) $df(x_1, x_2, x_3)$. ここで d は全微分である.
- ii) Kronecker のデルタの定義と和の規約を用いて, δ_{ii} の値を計算しなさい.
- iii) $\delta_{ij}A_j$ を求めなさい.
- iv) $\delta_{ij}\delta_{jk}$ を求めなさい.
- v) $(\partial_j x_i)(\partial_k x_j) = \delta_{ik}$ を証明しなさい.
- vi) テキストの (7.17) を確かめなさい.
- vii) ベクトル解析に現れる公式は, δ_{ij} , ε_{ijk} や 和の規約を使うと容易に証明できる. 次にあげる公式を, δ_{ij} , ε_{ijk} や和の規約を使って証明しなさい.
- a) ベクトル積に関する公式 $B \times A = -A \times B$,
 - b) ベクトル三重積に関する公式

$$A \cdot (B \times C) = B \cdot (C \times A) = C \cdot (A \times B),$$

- viii) $\varepsilon_{ijk}\varepsilon_{ilm} = \delta_{jl}\delta_{km} - \delta_{jm}\delta_{kl}$ を確かめなさい.
- ix) 流体力学の Lagrange 微分に現れる移流項 $v \cdot \nabla v$ は,

$$v \cdot \nabla v = \nabla \left(\frac{1}{2}|v|^2 \right) + \omega \times v \quad (1)$$

と書けることを証明しなさい. ここで v は流体の速度場で, $\omega \equiv \nabla \times v$ は渦度と呼ばれる物理量である (上の関係式は Bernoulli の定理を証明するときに用いられる.)

- x) $\nabla \times (SA) = (\nabla S) \times A + S(\nabla \times A)$ を和の規約を用いて証明しなさい.
- xi) $\nabla \times (\nabla \phi) = 0$ を和の規約を使って証明しなさい.
- xii) $\nabla \cdot (\nabla \times A) = 0$ を和の規約を使って証明しなさい.